真理創造・自主独立　～守れいのち！体・心・将来～

学校通信

5つ星プラス

トップくん（マスコットキャラクター）

三豊市立豊中中学校

2024(令和6)年
11 月 1 日(金)
● 第８号 ●

言葉は、人から人へ「こだま」する!?

11月の目標「ていねいな言葉づかいをしよう」（生徒会･委員長会）が全校集会で発表され、生徒会役員が堂々と劇をして全校生に呼びかけました（右写真）。「言葉づかい見直し週間」も始まり、普段の言葉づかいを振り返る機運が学校全体で高まっています。

詩人の金子みすず（1903-1930）さんに、こんな詩があります。

「馬鹿」っていうと　　「馬鹿」っていう。
「もう遊ばない」っていうと　　「遊ばない」っていう。
そうして、あとで　　さみしくなって、
「ごめんね」っていうと　　「ごめんね」っていう。
こだまでしょうか、　　いいえ、誰でも。

（「こだまでしょうか」より一部抜粋）

言葉は＊こだま。　　＊こだま（木霊）…山や谷などで、声や音が反響して返ってくること。やまびこ。

投げかけられた言葉に反応するのは、こだまだけでなく誰の心もそうだと、詩人は言っています。この詩は、東日本大震災（2011）の頃にもテレビの公共広告で流れていましたが、コロナ禍を経て人間関係が希薄になった今の時代にも通じるものがあるかもしれません。人と人のつながりと言葉の関係について改めて考えさせられます。

「言霊」という言葉を聞いたことがありますか。「言葉には神秘的な力が宿る」という日本古来の考えで「口から発する言葉が周囲や自分に大きな影響を与える」ことを言います。確かに、「どうせダメだよ」と言われるのと「絶対できるよ」と言われるのでは、言葉を受け取った時の気持ちや結果がずいぶん変わるのではないでしょうか。言葉は、勇気を与える力にもなるし、人を傷つける凶器にもなります。

この詩を使った公共広告の制作者は、CMに込めた願いを次のように語っています。

たった一言で、人は傷つく。たった一言で、人は微笑む。
自分がやさしく話しかければ、きっと相手も、おだやかに答えを返してくれる。
ことばは、人から人へ「こだま」します。
この広告が、人と人のやさしい会話のきっかけになればと願っています。（ACジャパン公式HP より）

言葉は単なる音声でなく“もう一人の自分”つまり、その人の心や考えを映している鏡のようなものです。それだけに、自分の言葉に責任を持ち、周りにどんな影響を与えているか、振り返ることは大切です。

豊中生の皆さんには、周りの人を勇気づけるような温かい言葉をつかえる人に成長してほしいと願っています。

👀言葉に乗せて思いを届けた合唱コンクール